

学校名	県立ゆり養護学校道川分教室	評価領域	センター的機能
-----	---------------	------	---------

重点目標	病弱教育に係るセンター的機能の推進	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度は、県内病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校を全て訪問することができた。児童生徒の多様な実態や校内支援体制、教育的ニーズ等を知ることはできたが、情報収集・共有・提供などの支援に止まっている。指導内容・方法、合理的な配慮等について、適切で具体的な支援・提案ができるよう、教員の専門性の向上が求められる。 昨年度に引き続き、文部科学省委託事業である「特別支援学校のセンター的機能充実事業」「特別支援学校ネットワーク構築事業」を活用しながら取り組んでいる。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○県内の病弱・身体虚弱特別支援学級との結び付きを強化し、教育的ニーズに応じた適切な支援方法や情報を提供する。 ○病弱虚弱教育への理解を一層深め、専門性の向上を図る。 ・学校評価項目「センター的機能について、地域のニーズに応じた支援ができて」「病弱教育に係るセンター的機能についてニーズに応じた支援が行われている」で平均評価点3.00（満点4.00）以上にする。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校訪問を実施 ・県内外の病弱特別支援学校との公開授業研究会・研修会等への相互参加 ・秋田県病弱教育研修会(兼)病弱・身体虚弱教育担当教員研修会の企画・開催 [年2回] ・病弱虚弱教育に関する実践情報をホームページで公開 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校訪問（特別支援教育セミナーを含む）の実施 ・秋田きらり支援学校や他県病弱特別支援学校との公開授業研究会・研修会等への相互参加 ・秋田きらり支援学校と連携した秋田県病弱教育研修会(兼)病弱・身体虚弱教育担当教員研修会の企画・開催 [年2回] ・病弱虚弱教育に関する実践情報（授業研究会・研修会記録、学習指導案等）をホームページで公開 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校への訪問が定着（訪問率：88.9%、16校/18校中）し、児童生徒の実態や校内支援体制、教育的ニーズ等に応じた情報提供などの支援ができた。また、特別支援教育セミナーに同行し、病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校5校6回の訪問を実施することができた。 ・青森県立浪岡養護学校、青森若葉養護学校、秋田きらり支援学校と連携し、分教室主催の公開授業研究会・研修会に他校教員9名の参加を得ることができた。また、他校主催の公開授業研究会・研修会へ分教室教員を10回；20名派遣することができ、授業参観・協議・講演等を通して病弱虚弱教育への理解を深め、専門性を高めることができた。 	D

	<ul style="list-style-type: none"> ・「病弱教育セミナー2016」に参加し、病弱虚弱教育に関わる教育・医療・福祉関係者等による講義や演習を通して、病弱教育の現状や病気の種類とその特徴、医療の現場の実際、入院や在宅している子どもたちの実情などの最新情報を、職員間で還元・共有できた。 ・秋田きらり支援学校との共催で、秋田県病弱教育研修会(兼)病弱・身体虚弱教育担当教員研修会を開催(年2回; 9月10日、1月7日)することができた。特別支援学級担任の参加が少なく(各研修会4名)、今後、ニーズに応じた開催時期や場所、研修内容・方法等を再検討する必要がある。 ・小・中学校、特別支援学校等からの病弱虚弱教育に関する電話相談が「道川分教室」に直接入るようになるなど、病弱虚弱教育の相談先として認知されつつある。 ・病弱虚弱教育に関する実践情報(授業研究会・研修会記録、学習指導案等)をホームページで公開することができた。 	
--	--	--



自己評価	<p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価項目「センター的機能について、地域のニーズに応じた支援ができていいる」は平均評価点3.43、「病弱教育に係るセンター的機能についてニーズに応じた支援が行われている」は平均評価点3.29で目標を上回った。成果を実感できている一方で、今後、多様な教育的ニーズに対応できるように、病弱虚弱教育に関する専門性の向上に加え、インクルーシブ教育等に係る知識(基礎的環境、合理的配慮等)やアセスメント技術(WISC-IV等)の更なる向上を図ることが課題である。また、病弱虚弱教育に関する情報の収集・蓄積及び提供・発信のシステム確立も必要である。加えて、病弱・身体虚弱教育担当教員のネットワークづくりが求められている。 	C
(評価) A		



学校関係者 評価と意見	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議委員会においては、「職員一丸となつての努力が感じられる」「学校の目標とするものが具体的に実践されている」「充実した教育活動が地域の中で展開されていくことを今後も期待したい」などの意見をいただいた。 ・病院・学校連絡会においては、評価領域「分教室運営」の平均評価点が3.81(満点4.00)であり、教育方針・運営計画の説明や、連絡・調整・情報交換等の連携が適切に進められているとの高い評価を得られた。 	
(評価) A		



自己評価及び 学校関係者評価 に基づいた 改善策	<p>《センター的機能による病弱・身体虚弱教育担当教員のネットワーク構築に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病弱・身体虚弱特別支援学級設置校への訪問継続・定着[目標訪問率: 100%](「現状把握・情報共有」から「教育的ニーズに応じた情報提供及び支援内容・方法の提案」へ) ・病弱虚弱教育に関する指導力・専門性の向上を目指した秋田きらり支援学校や他県病弱特別支援学校との連携継続(授業研究会・研修会等への交互参加、及び外部人材の活用) ・秋田きらり支援学校と連携した秋田県病弱教育研修会(兼)病弱・身体虚弱教育担当教員研修会の企画・開催[年2回] ・病弱虚弱教育に係る通信やセンター的機能PRリーフレットの作成・配布 ・病弱虚弱教育に関する実践情報(学習指導案、年間指導計画、人材等)のデータベース化の検討 	A
-----------------------------------	--	---